

# 台湾との技術交流推進

## Promotion of technology exchanges with Taiwan

水循環・まちづくり・防災グループ 研究員 阿部 充  
 主席研究員 麓 博史  
 企画グループ グループ長 勢田 昌功  
 審議役 土屋 信行

### 1. はじめに

リバーフロント研究所では、2001年に台湾の七星農田水利研究発展基金会と「河川水辺環境の技術協力」について合意して以来、毎年、日本と台湾の相互訪問等による技術交流を続けてきている。

近年は新型コロナウイルスによるパンデミックの影響により2020年は中止、2021年はWEB会議という形での開催であったが、2022年度は3年ぶりに訪台、訪日を通し技術交流を行った。本稿は、その結果について報告するものである。

### 2. 訪台 [2022年10月13日～14日]

#### 2-1 日台技術交流フォーラム

訪台時においては、毎年台湾の河川行政職員を対象としたフォーラム形式の技術交流を実施しているが、2022年度のフォーラムは、前年度と同様に台湾国際水週間 (Taiwan International Water Week) の一環のプログラムとして開催された。台湾国際水週間は中華民国対外貿易発展協会と台湾經濟部水利署とが共同で主催する、台湾国内外の水資源や水処理産業をはじめとする最新の水関連技術や商品を紹介する水ソリューションの国際見本市である。2019年から毎年9月ないし10月に開催され、2022年度は「グリーンサステナビリティのための革新的水戦略」と題して開催された。

今回の日台技術フォーラムでは「気候変動下での洪水防止と適応戦略」がテーマとされ、当研究所からは塚原浩一代表理事、土屋信行審議役、麓博史主席研究員、滋賀県立大学の瀧健太郎准教授 (2022年当時) が参加し、麓主席研究員からは「地球温暖化を受けての洪水計画の適応策と流域治水」、瀧准教授からは「定量的な氾濫原管理に関する滋賀県の取り組み」について発表した。台湾側からは、「農業用遊水地の洪水リスク管理への適用」、「洪水シミュレーションモデルとデータサービスの統合」について発表があり、流域治水の取り組みについて意見交換を行った。



写真-1 技術交流セッションの様子



写真-2 登壇者による記念撮影

#### 2-2 現地視察

新北市三峡区の三峡河の視察を行った。この街は、災害対応のための築堤の計画がある一方で、約100年前に赤レンガ風にデザインされた水辺の観光地であり、水辺と一体となった整備が課題となっていた。住民等と意見交換をした結果、景観を壊さないよう洪水時(台風)のみに鋼板を設置する等の工夫がなされていた。





写真－3 景観に配慮された洪水対策



写真－3 景観に配慮された洪水対策



写真－4 赤レンガ風にデザインされた街並

### 3. 訪日 [2022年10月7日～10月18日]

10月7日～11日に2グループ、10月14日～18日に2グループの訪日団が、遠賀川、筑後川、鴨川、琵琶湖、荒川彩湖等の現地視察を行い、勢田昌功業務執行役、麓博史主席研究員、風間聡水循環・まちづくり・防災グループ次長が一部行程に同行するとともに、リバーフロント研究所で意見交換を実施した。

鴨川の現場では、鴨川公園や魚道、飛び石等について視察をするともに納涼床等の河川空間の利用につ

て意見交換を実施した。また、琵琶湖の現場では、滋賀県と守山市に案内していただき、胴長を履いて琵琶湖に入り、滋賀県の突堤整備による湖岸再生における産卵場の再生や、環境保全団体と企業・行政の連携協働による小さな自然再生について視察を行った。



写真－5 鴨川の視察の様子



写真－6 琵琶湖の視察の様子(守山市長:中央左と)

### 4. おわりに

日本と台湾は国土の特徴がよく似ており、昨今激甚化する災害への対応面から、両国の技術交流はますます重要となると考えられる。今後もその重要性を認識しながら、当研究所が河川環境に関する両国の技術交流の懸け橋となる役割を担っていきたいと考える。

今回の技術交流にあたり、台湾經濟部水利署の皆様、日本側の発表を担っていただいた滋賀県立大学瀧健太郎教授、訪日時の現地視察にご協力いただいた京都府、滋賀県守山市の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。